

ふくしゅう ことばの復習をしよう



社会科副読本「わたしたちの十和田市」には、
 たくさん大切な「ことば」が出てきたよ。
 きみは、いくつ説明できるかな。
 うまく説明できないときは、「ことば」が出
 てきたページを開いて確かめてみてね。

3 年

1 わたしたちの十和田市

- ・ 絵地図 6 ページ
- ・ 土地の様子ようす 8 ページ
- ・ 公共しせつこうきせつ 9 ページ

2 はたらく人とわたしたちの暮らし

- ・ 作付面積さくつけめんせき 24 ページ
- ・ ヘクタール (ha) 24 ページ
- ・ 農業協同組合 (JA) 26 ページ
- ・ やませ 26 ページ
- ・ 自然のめぐみしぜん 31 ページ
- ・ キャッチコピー 33 ページ

3 暮らしを守る

- ・ 訓練・点検くんれん てんけん 51 ページ
- ・ 協力きょうりよく 54 ページ
- ・ 通信指令室つうしん しれいしつ 55 ページ
- ・ 消防しせつしょうぼう 57 ページ
- ・ 法やきまりほう 66 ページ
- ・ 子ども110番の家 68 ページ

4 十和田市のうつりかわり

- ・ ヘクタール (ha) 74 ページ
- ・ 人口じんこう 75 ページ

4 年

1 わたしたちの青森県

- ・ 地形 81 ページ
- ・ 土地利用りよう 82 ページ
- ・ 県庁所在地けんちやうしよざいち 83 ページ
- ・ 交通 85 ページ
- ・ 産業さんぎやう 86 ページ

2 住みよいくらしをつくる

- ・ じょう水場 93 ページ
- ・ 立方メートル (m³) 93 ページ
- ・ 分別ぶんべつ 101 ページ
- ・ ごみしょうきゃくしせつ 103 ページ
- ・ しょぶん場 104 ページ
- ・ リサイクル 107 ページ
- ・ 家電リサイクル法かでん りつ 107 ページ
- ・ リサイクル率 108 ページ



4 年

3 自然災害からくらしを守る

- ・ 災害用伝言ダイヤル
し ぜんさいがい
ようでんごん
 115 ページ
- ・ 防災計画 . . . 116 ページ
ぼうさい
- ・ 自主防災組織 . 117 ページ
- ・ ハザードマップ 120 ページ

4 きょう土の伝統・文化と 先人たち

- ・ 文化ざい 125 ページ
でんとう
せんじん
- ・ 年中行事 . . . 125 ページ
ねんちゆうぎようじ
- ・ 三本木原 126 ページ
- ・ 用水路 127 ページ
ようすいろ
- ・ 等高線 128 ページ
とうこうせん
- ・ 断面図 128 ページ
だんめんず
- ・ 台地 131 ページ
- ・ 開拓 138 ページ
かいたく
- ・ 開墾 139 ページ
かいこん

5 青森県とくしよくの特色ある地いき と人々のくらし


- ・ 伝統的な産業 . 142 ページ
でんとうてき さんぎよう
しまいとし
- ・ 姉妹都市 147 ページ
- ・ 重要文化財 . . 151 ページ
じゆうよう ざい
- ・ 曳家 151 ページ
ひきや
- ・ 景観 154 ページ
けいかん



(十和田市キャラクター 駒松くん 駒桜ちゃん)

十和田市のうっりかわり

(●→全国に関係したできごと)

時代	せい 西	れき 曆	ねん 年	ごう 号	おもなできごと
縄文・弥生・古墳・飛鳥	9000年ほど前		てらうえいせき やまのそと じょうもんぜん き ど き ほへん 寺上遺跡, 山ノ外遺跡で縄文前期の土器の破片が見つかる。		
	6000年から 2000年ほど前		たきさわ あかぬま きりだ ほらない ふじしま ふかもち ほりょう さわだ ちゅう ばん 法量, 沢田等)で縄文中 ~ 晩期の土器が見つかる。		
奈良	710	わどう 和銅	3		●元明天皇が奈良(平城京)に都をうつす。
平安	794	えんりやく 延暦	13		●桓武天皇が京都(平安京)に都をうつす。
	843	じょうわ 承和	10		切田に正法寺が建てられる。→ 
	1086	おうとく 応徳	2		でんぼうじ げんざい こうみょうじ 伝法寺(現在の光明寺)が建てられる。
	1191	けんきゅう 建久	2		たきさわ なかわたりはちまんぐう 滝沢に中渡八幡宮が建てられる。→ 
鎌倉	1192		3		●源頼朝が鎌倉に幕府を開く。
倉	1245	かんげん 寛元	3		ほっしん ぜんし ほうれんじ 法身禅師により洞内に法蓮寺が建てられる。(別記: 法心)
室町	1338	りやくおう 暦応	元		●足利尊氏が京都に幕府を開く。
	1492	めいおう 明応	元		しんざん 赤沼に新山神社が建てられる。→ 
安土桃山	1590	てんしょう 天正	18		●豊臣秀吉が全国を統一する。
	1598	けいちよう 慶長	3		とよら 洞内に豊良八幡宮が建てられる。→ 
江戸	1603		8		●徳川家康が江戸に幕府を開く。
	1640	かんえい 寛永	17		古文書に三本木の名前が初めて出る。
	1665	かんぶん 寛文	5		いちりづか せいび 三本木を通る道沿いに一里塚が整備される。→ 

江戸	1669	9	南部藩が新田開発を勧めるおふれを出す。
	1694	元禄 7	南部藩大凶作（飢えて死んだ人は5万人ともいわれる）
	1780	安永 9	主な地区の戸数・・・三本木（54）、切田（154）、立崎（42）、洞内（140）、相坂（166）、藤島（83）、大不動（62）、滝沢（115）、米田（197）、伝法寺（96）、大沢田（91） 他
	1783	天明 3	天明の大ききん （この年南部藩だけで7万5千人の死者） のちに板ノ沢神社に死者を弔う供養塔が建てられる。
	1825	文政 8	新渡戸傳が十和田山から木材を切り出して商売をする。
	1855	安政 2	新渡戸傳が稲生川の工事を始める。
	1858	5	新渡戸十次郎が矢神から三本木までの陸ぜきをつくる。
	1859	6	稲生川が完成する。
	1860	元 万延	新渡戸傳と十次郎が、各所に用水路を整備し、田を開き、初田で米45俵を収穫する。 十次郎が、現在の街並みの基礎となる都市計画をつくる。
明治	1868	明治 元	●明治維新により江戸が「東京」となる。
	1870	3	三本木で官営馬市が始まる。
	1871	4	廃藩置県が行われ、この地域は「七戸県」「斗南県」とされた。間もなく「弘前県」となり、その後、現在と同じ「青森県」となる。
	1872	5	●東京～横浜間に日本初の鉄道が開通する。
	1872	5	三本木火防組（現在の十和田消防署）がつくられる。
	1873	6	三本木小学校開校。



明治	1874	7	三本木郵便所（現在の十和田郵便局）ができる。	
	1881	14	明治天皇がこの地においでになる。	
	1885	18	三本木軍馬育成所ができる。	
	1887	20	三本木に人力車 <small>じんりき</small> の路線が開通する。	
	1889	22	●明治政府により大日本帝国憲法 <small>だいにっぽんていこくけんぽう</small> が公布 <small>はつぷ</small> される。	
	1889	22	市町村制施行 <small>しこう</small> により，三本木村，藤坂村，四和村，大深内村，法奥沢村の各村ができる。	
	1890	23	三本木村に渋沢農場 <small>しぶさわ</small> ができる。→	
	1891	24	●東京～青森間に鉄道が開通する。	【渋沢栄一】
	1894～1895		●日清戦争 <small>にっしん</small> （当時の日本と中国の戦い）	
	1896	明治29	三本木軍馬育成所 <small>ぐんぼ</small> が，国内最大規模 <small>きぼ</small> の陸軍軍馬補充部 <small>ほじゅうぶ</small> 三本木支部となる。→	
	1898	31	青森県農学校（現在の三本木農業高等学校）が開校する。	
	1901	34	白上 <small>しらうえ</small> に青森県水産試験場ができる。 佐々木農機（現在の株式会社ササキコーポレーション）が三本木に設立される。	
	1902	35	八甲田山雪中行軍遭難事件 <small>せつちゅうこうぐんそうなん</small> で197名の兵士が死亡。	
	1904～1905		●日露戦争 <small>にちろ</small> （当時の日本とロシアの戦い）	
	1904	明治37	三本木に本屋と床屋 <small>とこや</small> ができる。	
	1905	38	三本木～下田間に客馬車の定期路線が開通する。	
	1908	41	新渡戸稲造博士 <small>いなぞうはかせ</small> が三本木で講演する。	
1910	43	三本木村が三本木町になる。		

明治	1911	44	町立三本木女子実業補修学校（現在の県立三本木高等学校）が開校する。	
大正	1914	大正 3	三本木に初めて電気が通る。 三本木～古間木（現在の三沢）間に駅馬車が開通する。	
	1914～1918		●第1次世界大戦（日本も参戦する）	
	1917	大正 6	三本木に初めて乗用車が入る。	
	1920	9	●日本が、国際連盟 ^{れんめい} に加入する。	
	1922	11	十和田鉄道（三本木～古間木）が開通する。↓	
	1923	12	●日本でラジオ放送が始まる。	
	1926	15	三本木～八戸間にバスが走る。	
昭和	1927	昭和 2	三本木で初めてラジオが使われるようになる。	
	1933	8	●日本が国際連盟から脱退 ^{だつたい} する。	
	1936	11	十和田湖や八甲田 ^{いったい} 一帯が国立公園に指定される。	
	1937	12	●日中戦争始まる。	日中戦争から太平洋戦争終了まで、旧十和田市・旧十和田湖町からは、1000人近くが戦地に行き、戦死や現地での病気等で死亡した。（中央公園 ^{おおぼり} ・大堀公園 ^{ちゅうこんひ} に忠魂碑あり）
	1939～1945		●第2次世界大戦	
	1941～1945		●太平洋戦争	
	1942	昭和 17	冷害に強い稲の新品種「藤坂1号」が藤坂稲作試験場で開発される。のちの「藤坂5号」は全国的に有名になる。	
	1943	18	焼山に十和田発電所が建設される。	
	1945	20	●広島・長崎に原子爆弾 ^{ぼくだん} が投下され、日本はアメリカなどの連合 ^{ごうふく} 国に降伏 ^{しゅうけつ} し、戦争終結となる。	



昭 和	1946	21	● <small>にほんこくけんぽうこうふ</small> 日本国憲法公布。	
	1951	26	十和田観光電鉄株式会社により、三本木～古間木間で電車運行が開始される。 藤坂に上北農産加工農業協同組合（KNK）が設立される。	
	1953	28	十和田湖休屋に「乙女の像」が建てられる。↓	
	1955	30	初めてのテレビが三本木の店に入る。 1町3村が合併し三本木市誕生。 次の年に十和田市 <small>かいめい</small> に改名。	
	1958	33	十和田市立中央病院が開院する。	
	1963	38	青森県立十和田工業高等学校が開校する。	
	1964	39	十和田湖温泉スキー場がつくられる。	
	1965	40	市役所 <small>ちやうしや</small> 庁舎が建てられる。→ (令和2年取りこわし)	
	1966	41	十和田市に北里大学獣医学部が開校する。	【北里柴三郎】
	1968	43	<small>と ちかおき</small> 十勝沖地震により十和田地域も大きな被害を受ける。	
	1970	45	市学校給食センターが操業開始。 中央公民館がつくられる。	
	1971	46	藤坂地区で「太子食品工業（株）十和田工場」が操業開始。	
	1972	47	十和田地区消防事務組合（旧十和田市・旧十和田湖町・六戸町）ができる。 旧十和田市民図書館がつくられる。→	
	1973	48	奥瀬地区の旧 <small>きゆうかさいしけ</small> 笠石家が、国の重要文化財 <small>ぶんかざい</small> に指定される。	
	1980	55	十和田市下水処理場がつくられる。 南公民館（現南コミュニティセンター）ができる。	
1985	60	十和田広域事務組合十和田 <small>しやうきやくしせつ</small> ごみ焼却施設がつくられる。		

昭和	1986	61	官庁街通りが「日本の道百選」に選ばれる。 十和田市民文化センターが開館する。→	
	1989	平成元	沢田地区に青森県立十和田西高等学校が開校する。	
平成	1993	5	●戦後最悪の大冷害で全国的に米不足が起きる。	
	1994	6	十和田市総合体育センターができる。→	
	1995	7	奥瀬地区で道の駅「奥入瀬ロマンパーク」が操業開始。	
	1999	11	昭和48年操業の「松木屋十和田店」が閉店となる。 伝法寺地区で「マル厨工業（株）東北工場」が操業開始。 市役所新館（現別館）が建てられる。	
	2000	12	高森山に馬の文化資料館「称徳館」が建てられる。 高清水に「ワダカン（株）」がつくられ操業を開始する。	
	2001	13	国道4号線十和田バイパスが全面開通する。 伝法寺の十和田バイパス沿いに道の駅「とわだぴあ」操業。	
	2004	16	宇樽部～休屋間に宇樽部トンネルができる。	
	2005	17	旧十和田市・旧十和田湖町が合併し、新「十和田市」誕生。 藤坂地区「イオン十和田ショッピングセンター」操業開始。	
	2006	18	元町地区に「十和田パイオニア（株）」工場が操業開始。	
	2008	20	十和田市現代美術館が開館する。→	
	2010	22	●東北新幹線で、東京～青森間が開通する。	
	2011	23	●東日本大震災が発生。東北地方太平洋岸で大きな被害。	
	2012	24	十和田観光電鉄十和田～三沢間の鉄道が廃止される。	
	2013	25	滝沢小・米田小・大不動小が閉校となり、四和小が開校。 伝法寺小が藤坂小と統合となる。	
	2015	27	市民図書館，市民交流プラザ「タワーレ」が建てられる。	
令和	2019	令和元	市役所本館（新庁舎）が建てられる。	
	2020	2	●東京オリンピック・パラリンピックが開かれる。（予定）	

※年表は十和田の主な歴史的事象を取り上げ作成したが、国全体の動きとの関係も、ある程度把握させるべきとの考えから、●印のように、国に関わる事象も入れた。

※十和田市は学校数が多く、一部を除き、小・中学校の創立，統廃合等の動きは入れないこととした。

十和田市の農業の様子（県内ベスト3及び十和田市順位）

区分	本市の規模	本市順位	県内順位			摘要	
			1位	2位	3位		
耕作面積	水田	7,084ha	2位	つがる市	十和田市	五所川原市	2015農林業センサスより
	普通畑	1,398ha	4位	東北町	つがる市	三沢市	
	樹園地	24ha	19位	弘前市	平川市	板柳町	
	牧草地	1,249ha	3位	六ヶ所村	東北町	十和田市	
計	9,755ha	3位	つがる市	弘前市	十和田市		
平均耕地面積		3.6ha	(1戸当たり平均 ※参考値として算出)				
農家等	農家戸数	2,729戸	4位	弘前市	平川市	八戸市	2015農林業センサスより
	専業農家数	719戸	4位	弘前市	つがる市	五所川原市	
	農業就業人口	3,824戸	3位	弘前市	つがる市	十和田市	
主要作物作付面積	水稲	3,591ha	3位	つがる市	五所川原市	十和田市	
	大豆	243ha	5位	つがる市	五所川原市	弘前市	
	小麦	201ha	2位	つがる市	十和田市	五所川原市	
	ねぎ	125ha	1位	十和田市	つがる市	八戸市	
	にんにく	375ha	1位	十和田市	七戸町	東北町	上北地域県民局、普及指導活動のまとめより (H29年度) 順位は上北管内
	長芋	206ha	3位	東北町	六ヶ所村	十和田市	
家畜頭数	ごぼう	184ha	4位	三沢市	六戸町	東北町	農林畜産課より (H29年度)
	肉用牛	12,276頭	1位	十和田市	七戸町	つがる市	
	養豚	79,110頭	1位	十和田市	三沢市	横浜町	
	乳牛	276頭	8位	六ヶ所村	東北町	むつ市	
	馬	109頭	4位	五所川原市	中泊町	東北町	

平成30年度 十和田市資料（農業委員会）等より



○青森県の白地図



軍馬補充部三本木支部について

はじめに ～先生方へ～

「軍馬補充部三本木支部」とは、明治から昭和の太平洋戦争終結時まで、三本木町(現在の十和田市)の中心部に置かれた旧日本陸軍の一大軍馬生産施設のことで、当時国内に複数あった同様の施設の中では最大規模を誇り、現在の十和田市の発展にも大きな影響を与えた軍事関連施設である。

広大な牧場には、軍馬を生産・育成・訓練するための様々な施設や、飼料用の畑などが広がり、支部の中心となる建物(事務所)は、現三本木中学校付近にあった。日本の道百選にも選ばれている十和田市官庁街は、三本木大通り(旧国道4号線)から支部事務所まで続く専用道路であった。牧場などの敷地は、現在の十和田市の市街地から、遠くは七戸や五戸方面まで続く広大なもので、まさに国内有数の大規模な施設がこの地に広がっていたのである。

しかし、敗戦とともに、当事国内にあった軍事施設の多くは破壊処理されたため、軍馬補充部三本木支部も、その痕跡は現在ほとんど残っていない。

明治から昭和にかけて、この地に軍馬補充部が置かれたことで、全国各地から多くの人が集まり、馬産の仕事のみならず、農林業や商工業など様々な産業の裾野が広がり、この地域を一大地方都市として発展させることにつながった。

十和田市内で児童生徒の教育に携わる先生方には、このことをぜひ頭の隅に置き、社会科指導や郷土学習、地域散策等にあたっただけならば幸いである。

副読本を主として使用する中学年では、「軍馬補充部三本木支部」を授業で直接取り上げることはあまりないと思われるが、十和田市発展の基礎となった重要な郷土史の一コマとして、次代を担う子どもたちに伝えるべく適宜触れていただく機会を大切にしてほしいと心から願う。 本頁執筆担当:副読本編集委員長 小原広基

1 十和田と馬とのかわり

十和田市が「馬のまち」とか「駒のまち」と言われる理由は大きく3つある。

- (1)古い時代から、今の十和田市を含む上北地方全体が「木崎野牧」(きさきのまき)と呼ばれ、優れた馬を育てる地域として、中央の武将にとっても、あこがれの場所であったこと。
- (2)明治時代から、日本最大の軍馬の生産基地である「軍馬補充部三本木支部」が置かれ、何万頭もの馬を生産し、十和田が大きく発展したこと。
- (3)市内各地域には、歴史と伝統のある「駒踊り」が残されていて、今もずっと引き継がれるなど、馬を大切にする文化が続いていること。

特に(2)に関しては、江戸時代の文久3年(1863年)に馬市が開催されて以来、この地は馬のセリでにぎわい、さらに、明治時代に入ると軍馬補充部三本木支部が置かれたことで、馬産地としての知名度はいっそう高まることとなった。

2 軍馬補充部三本木支部とは

軍馬補充部は、旧日本陸軍の施設の一つで、戦場に送るための軍馬を育てるために、明治時代の初めに全国各地に設立された。その支部の中で、当時の軍馬補

充部三本木支部は、最も規模が大きかった。(総敷地面積13,100ha)

当時の統計資料で、各地にある軍馬補充部の年間育成馬飼育頭数で見ても、

- | | | |
|---------|-----|--------|
| ① 釧路支部 | 北海道 | 854頭 |
| ② 三本木支部 | 青森県 | 2,806頭 |
| ③ 萩野支部 | 山形県 | 453頭 |
| ④ 白河支部 | 福島県 | 635頭 |
| ⑤ 高鍋支部 | 宮崎県 | 411頭 |

と、ずばぬけて多かったのが三本木支部である。明治から太平洋戦争終結まで、実に2万頭以上の軍馬がここで生産され、戦地に送られたのである。

3 十和田市の発展と軍馬補充部三本木支部

現在の十和田市発展の礎ということ考えると、やはり2つの史実を挙げたい。「稲生川」と「軍馬補充部三本木支部」である。それぞれの意味や背景には大きな違いがあるが、間違いなく当時の人口増加や産業振興に大きな影響を与えた。

(1) 新渡戸傳・十次郎により三本木原に「**稲生川**」が作られ、これが完成したことで、荒れ地が広がっていたこの地域で安定した米作りが可能となった。

まちづくりも進められ、米を作る小作人だけでなく、商人や職人なども各地から集まり、いろいろな商店、宿屋などが立ち並ぶようになった。

新渡戸親子の三本木原開拓は、この地に田をもたらしただけでなく、新たなまちを作り、産業を根付かせる大きな礎となった。

(2) 明治17年に軍馬育成所(後の軍馬補充部)がこの地に開設され、同29年に「**軍馬補充部三本木支部**」と改称され、昭和20年の終戦で解体されるまでの間、この地域の産業振興に大きな影響を与えた。馬を取り引きする市場(産馬組合という)が作られ、馬の育成や取り引きに関係する多くの人がこの地に集まり、伴って商店や工場、飲食店、宿泊施設などが増えた。

支部が置かれたことは、結果として戦後十和田発展の基盤となった。

——— 戦争が終わるまぎわに、全国の軍馬補充部は軍司令部の命令によりただちに破壊・解体され、関係書類や写真等もほとんど焼却処分されたことから、当時を思い起こすような遺構や関係文献等を直接目にするにはほとんどない。

しかし、当時の軍馬補充部三本木支部事務所に通じる専用の道路であった現在の官庁街には、馬に関わる大小様々なモニュメントが飾られ、平和で美しい街並みに溶け込んでいる。その風景は、軍馬の生産という当時の国情による繁栄とは意を異にしても、この道を多くの馬が行き交った事実を今に伝える役目を果たしている。

また、十和田市民図書館西側には、「旧日本陸軍軍馬補充部三本木支部跡」の石碑が立っている。まさにこの地が軍馬の一大生産地であった証となっている。



「出征する軍馬」

育てられた軍馬はこして戦地に送られる



「兵隊を載せた軍馬」

行軍中の部隊(中国本土と思われる)



「軍馬育成の牧場」

三本木支部の牧場(五郷付近と思われる)



「支部へ通じる道」

支部入口の門と専用道(現在の官庁街中央交番付近)



この副読本は、たくさんの方々や、団体、関係機関
のご協力によって完成したんだよ。感謝しながら、
大切に使おうね。

ご協力いただいた方々や団体機関

- ・矢吹 悠, 佐藤 努 (JA十和田おいらせ農業協同組合 やさい指導課)
- ・蛭名 洋司 (ユニバース十和田東店 店長) ・中野渡教仁, 野月 武彦 (農業)
- ・十和田道の駅 ・上北農産加工株式会社 ・(株)小原工業 ・みせ青果店
- ・山田 玲子 (山田衣料) ・畑山 郁子 (十和田市消防団) ・十和田中央交番
- ・十和田地区交通安全協会 ・十和田警察署 ・十和田地域広域事業組合消防本部
- ・櫻田由祐子 (総務部総務課広報男女参画係 係長)
- ・山崎 武 (教育委員会スポーツ・生涯学習課文化係 係長)
- ・村岡 昭典 (こども子育て支援課 課長補佐)
- ・小笠原 満 (企画財政部税務課土地係 係長)
- ・櫻田慎太郎 (建設部都市整備建築課 主査)
- ・小川 友恵 (企画財政部政策財政課 課長補佐)
- ・坂本 龍裕 (企画財政部政策財政課政策企画係 係長)
- ・洞内 彩花 (企画財政部政策財政課政策企画係 主事)
- ・山口 秀勝 (稲生川土地改良区総務課 課長補佐) ・澤井 敦子 (旧笠石家)
- ・沢井 正幸 (総務部新庁舎建設室 総括主幹) ・大谷 紗絵 (十和田市現代美術館)
- ・工藤真由美 (総務部総務課 課長補佐) ・滝沢 裕希 (農林商工部商工観光課 主事)
- ・高見亜希子 (市民図書館奉仕係 係長) ・櫻田 悟 (健康福祉部生活福祉課 係長)
- ・高橋 克彦 (十和田市農業委員会事務局 次長) ・パワフルジャパン十和田
- ・市上下水道部水道課 ・まちづくり支援課 ・市ごみ焼却施設の方々
- ・青森県危機管理局防災危機管理課 ・青森県教育委員会 ・十和田市建設業協会
- ・十和田市郷土館 ・奥入瀬川クリーン対策協議会 ・水土里ネットいなおいがわ
- ・小林 輝子 (南部裂織保存会 会長) ・樋口 博昭 (ちとせ小学校 元校長)
- ・三沢市政策部国際交流課国際交流センター ・有限会社 ヒーローネット
- ・近藤 泰正 (三沢市政策部広報広聴課シティプロモーション推進係)
- ・福原 和実 (県商工労働部地域産業課地域資源活用推進グループ)
- ・竹ヶ原英夫 (十和田市外郭団体 事務局長)
- ・弘前市都市環境部公園緑地課 ・弘前観光コンベンション協会
- ・蝦名 一裕 (深浦町観光課観光振興係 主幹)
- ・小山内 優 (白神十二湖エコ・ミュージアム 十二湖森の会)

(敬称略 職名は令和2年3月1日現在)

主な参考文献・資料

- ・「令和元年度 農業委員会の概要」（十和田市農業委員会）
- ・農林水産省統計部ホームページ

- ・十和田地域広域事業組合消防本部資料 ・十和田警察署資料
- ・青森県警察本部ホームページ ・十和田市統計資料

- ・「太素の水」（東北農政局相坂川左岸農業水利事業所 2007年）
- ・「稲生川と土淵堰 大地を拓いた人々」（青森県立郷土館 1994年）
- ・「目で見ると十和田・三沢・上北の100年」（郷土出版社 神津良子 2000年）
- ・「十和田市地域公共交通網形成計画」（十和田市企画財政部政策財政課 2018年）
- ・「十和田市立地適正化計画」（十和田市建設部都市整備建築課 2018年）
- ・公益財団法人渋沢栄一記念財団ホームページ

- ・青森空港 Facebook
- ・青森県観光情報サイトアプティネット（青森県観光国際戦略局誘客交流課）
- ・学習状況調査過去問題（青森県教育委員会）
- ・「小学校社会科副読本3・4年生用（下） わたしたちの住む青森」
（八戸市小学校社会科教育研究会）
- ・「小学校社会科副読本 わたしたちのふるさと おいらせ町」（おいらせ町教育委員会）

- ・十和田地域広域事務組合ホームページ ・第3次十和田市ごみ減量行動計画
- ・十和田市水道事業会計決算数値（上水道）

- ・市ホームページ, ブログ

- ・「荒野に町をつくれー三本木原開拓ものがたり」（川口泰英）
- ・「十和田市・三本木原開拓と新渡戸三代の歴史ガイドブック」（太素顕彰会）
- ・「稲生川土地改良区史」「稲生川見学資料」（稲生川土地改良区）
- ・「稲生川の魅力を歩く」（共創郷土）

- ・弘前市シティープロモーションサイト ・弘前公園総合情報サイト

十和田市管内図

この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1
地形図を使用した。(承認番号) 平24特発 第144-30023号

平成二十五年一月



青森県十和田市役所

1 : 100,000



平成25年1月 北海道地図株式会社青森営業所
電話 (017) 777-9193